自己評価・学校関係者評価の比較

2022/2/15　　和光市立広沢小学校

自己評価（教職員）

自己評価の説明	今後の改善策等	A(4)	B(3)	C(2)	D(1)	合計	平均	%	評価
本校では、このコロナ禍の中、情報共有に努め、組織的に取り組んでいるが、課題もある。課題解決に向け、さらに一丸となって学校教育目標の達成に努めていくことが大切なことからBとした。	現在、熟議や教職員同士の対話、学校評価等を基に、学校教育目標も含めた学校経営法sンを策定している。教職員の参画を進め、さらに一丸となって目標達成に努めていく。	12	20	0	0	108	3.38	84.4%	B
今年度から新たな3年間の委嘱がスタートした。保護者や地域の方々との熟議を行ったり、コミュニティ・スクールだよりなどを発行したことから、少し意識が高まっているのでBとした。	学校や家庭、地域の思いをさらに融合し、より連携を深めていくために、情報共有をさらに進め、地域で子供を育むという意識を醸成していく。	19	12	1	0	114	3.56	89.1%	B
年間を通じて計画的な会議等の実施ができなかった。また分掌においては、業務の負担においてやや偏りも見られたことから、Cとした。	見通しをもちやすい年間の計画策定と、校務分掌の見直しを行う。	9	20	2	1	101	3.16	78.9%	C
定期的な衛生推進委員会が機能し、職場の働き方改革は進んでいる。特に職員間で何でも話しやすいなど、風通しの良い職場の雰囲気が醸成されている。一方で、業務分担等でさらなる改善が必要なことから、Bとした。	引き続き教職員の声を反映した職場づくりを進めるとともに、業務分担等について、校務分掌の見直し等を検討していく。	14	16	1	1	107	3.34	83.6%	B
職員集会での研修や様々な情報共有により、事故防止に努めていることから、Aとした。	手綱を緩めることなく、日頃から意識を高められるミニ研修や週報による情報提供を続け、事故防止に努めていく。	22	9	1	0	117	3.66	91.4%	A
施設・設備の点検を定期的に行うとともに、気付いたことはすぐに管理職に報告し、すぐに対応しているが万全ではない。老朽化も進んでいることから、さらに注意していくことが必要なことからBとした。	学校運営協議会でも防災を含めた危機管理体制の整備について声が上がっている。保護者や地域を巻き込んで何ができるかを検討し、具体的に実践していく。	19	12	1	0	114	3.56	89.1%	B
コロナ禍の影響で、定期的に行っていた訓練等ができなかったところもあったが、各学級で指導できるよう、動画を作成して活用するなど、コロナ禍で実施できる訓練を行ってきたことからBとした。	学校運営協議会でも、防災対応が話題として挙がっている。いつでも災害が起こるという視点で本校の防災対応や防災教育を見直していく。	13	18	1	0	108	3.38	84.4%	B
現状の中で社会科や生活科見学、また大人の熟議など様々な取組を行ってきたが、さらなる連携が必要なことからBとした。	昨年度に比べ、社会科見学や生活科見学など、地域に関わる行事等を行うことができた。今後、さらに地域の教育資源を有効活用できるよう、連携の仕方等検討していく。	11	18	3	0	104	3.25	81.3%	B
コミュニティ・スクールとして地域の方々がこれまで以上に学校に出入りするようになってきたが、その対応等は管理職が中心であった。地域で子供たちをどう育んでいくかの方向性を共有することは重要な課題であることからCとした。	今年度行ってきた地域との関わりを継続・発展させるとともに、校務分掌として地域と関わる担当をつくったり、研修等を行ったりしていく。	9	20	3	0	102	3.19	79.7%	C
おおむね学力は身についているが、タブレットの導入や教員間の差など、課題があることからBとした。	子供たちの基礎学力向上のために必要なことを、学校として職員間で共通理解を図り、指導法の改善に努めていく。	11	21	0	0	107	3.34	83.6%	B
校内研修や学校課題研究などを通して授業改善に努め、少しずつ改善しているが、新たにタブレットが導入されたことにより、その活用に課題があることから、Bとした。	校内研修や学校課題研究などを通して授業改善に努め、主体的・対話的で深い学びの実現をさらに進めていく。また、タブレット端末を有効に活用し、新しい時代を生きる子供たちに必要な力を育んでいく。	14	18	0	0	110	3.44	85.9%	B
タブレットの導入・活用がコロナの影響で急で、学校・家庭それぞれで困難を要したところもあったが、大きく活用が進んでいる。しかし課題はたくさんあり、更に有効な活用等を研究していくことが必要なことからBとした。	コロナ対応としてのタブレット活用から、スタンダードな道具としての活用に向けた活用方法を模索していく。	17	14	1	0	112	3.50	87.5%	B
カリキュラム・マネジメントについて意識が低い。教育の内容や時間、人やモノ…など、教育を構成する要素をどう組み立てていくかさらに学んでいく必要があることからCとした。	日々の授業づくりにおいて、カリキュラムマネジメントは欠かせないものから、研究・研修等も含め、検討・実施していく。	9	21	2	0	103	3.22	80.5%	C
学級での学びに大きな影響を及ぼす規律の乱れはないものの、学級や教員によって取り組みに差があるのでBとした。	学習規律を守ることの意義を、教職員で改めて確認するとともに、成果や課題を教職員間で共有し、具体的に課題解決を図っていく。	12	20	0	0	108	3.38	84.4%	B
担任一人ではなく、学年や担任外の教員とも連携し、組織としていじめや暴力等の防止に努めている。何か問題があった時にも、学年や生徒指導担当と素早く情報を共有し、対応していることからAとした。	個人に寄り添っていくためにも、日頃からの声掛けや定期的なアンケートを今後も実施していくとともに、全校での意識啓発や保護者への発信等に力を入れていく。	22	10	0	0	118	3.69	92.2%	A
現在の教育活動における子供たちの様子からは規律ある態度がおおむね身についていると思われるが、コロナ禍において集団活動に制限があったため、集団における規律ある態度に課題があるものと考え、Bとした。	網羅的な評価にとどまらず、個別具体的な状況を適切にとらえ、子供たちの力を伸ばしていく視点で必要な支援を行っていく。	15	17	0	0	111	3.47	86.7%	B
毎月の生徒指導部会において、各学年等の子供たちの様子について共通理解を図っているが、廊下歩行やあいさつ面で課題があることから、Bとした。	発達段階に応じて、子供たちがルールを守ることや規律ある態度で学校生活を送ることの意義を理解できるようにする。	10	22	0	0	106	3.31	82.8%	B
休み時間では、コロナ禍においても、感染症対策をしながら積極的に外で遊ぶ子供たちが多い。また体育の授業も、コロナ禍の制限はあったものの、適切な運動量を確保し、楽しく体を動かすことができていた。しかし、学校全体として意図的な体力向上が難しかったため、Bとした。	体育の授業では、子供たちがさらに意欲的に取り組めるよう、授業内容の工夫や的確な声かけなど、授業改善に努めていく。	20	12	0	0	116	3.63	90.6%	B
新体力テストの結果などからは、著しく体力が低下しているわけではないが、以前と比べて体を動かす機会が制限されていることから、意図的に向上策を講じる必要性があることからCとした。	新体力テストの結果などを参考に、本校の児童に必要な体力向上策を具体的に考え、実践していく。	9	19	4	0	101	3.16	78.9%	C
コロナの影響で、毎日黙食となっており、みんなで食べる楽しさや会食のマナーを学びにくい。その影響か、やや食べ残しも多い。いつもおいしい給食が提供され、子供たちは楽しみにしているが、食の意義をさらに高めていくことが必要なのでBとした。	全校での取組や発達段階に応じた食育を見直し、子供たちの食への意識を高めていく。	10	19	3	0	103	3.22	80.5%	B
子供一人一人と積極的に関わり、様々な角度から児童理解に努めている。また職員同士で子供が頑張っていた様子を伝え合っている姿も見られることからAとした。	コロナ禍の影響で、学級を超えた活動が少なかったことから、たてわり活動や学年等での活動を増やし、複数の目で子供たちを育てていくことに力を入れていく。	23	9	0	0	119	3.72	93.0%	A
ICT活用の力は、タブレットの導入で育成が図られている。また主体的・対話的で深い学びに必要な力も、授業改善を通じて育んでいる。子供たちが主体的に生きる将来を見据え、さらなる指導改善が必要なことから、Bとした。	Society5.0やVUCAという言葉に代表されるように、これからの時代の教育の在り方について追究できるような研究・研修を検討していく。	11	21	0	0	107	3.34	83.6%	B
		14.14	16.73	1.05	0.09	108.91	3.40	85.1%	平均
		44.2%	52.3%	3.3%	0.3%				

学校関係者評価（学校運営協議会委員）

	質　問	評価	A(4)	B(3)	C(2)	D(1)	合計	平均	%	学校関係者評価の説明	今後の改善策等
1	①学校は、学校教育目標達成（目指す児童像・学校像）に向けて全教職員で組織的に取り組んでいる。	B	6	4	0	0	36	3.60	90.0%	概ね、コロナ禍において、職員同士で意思疎通を図り、子供たちをよりよく育むために取り組んでいる様子が伺える。	引き続き教職員が意思疎通を図って取り組んでいくことに期待するとともに、新しい時代に必要な力の育成など、目指すべきことが明確な学校教育目標の策定に期待する。
2	学校は、コミュニティ・スクールとして、学校運営協議会と連携した学校運営を進めている。	B	6	3	1	0	35	3.50	87.5%	コロナ禍で会議の開催等難しかったが、熟議を行うなどこれまでよりも取り組む姿勢がみられる。	管理職のみならず、教職員と保護者・地域の関わりを増やしていく。
3	学校は校務分掌において機能的に役割を分担するとともに打ち合わせや会議等が円滑に行われるような体制づくりに努めている。	C	2	8	0	0	32	3.20	80.0%	教職員の役割分担等は、外部からは見えづらい。自己評価等のアンケートの結果からそううかがえる。	プロジェクトチームの活用など、効果的・効率的な役割分担や会議の実施等に引き続き務めてもらいたい。
4	学校は働き方改革を進め、職場の風通しをよくしたり、業務改善に努めたりしている。	B	5	3	2	0	33	3.30	82.5%	アンケートの結果から、雰囲気のよさを感じた。今後ICTの更なる活用等で教職員の時間外在校時間は減らせると考える。	ICTの有効活用や外部連携等を進め、さらなる時間外在校時間を減らしてほしい。
5	学校は教職員一人一人に、教育公務員としての自覚と誇りを持たせ、互いに連携・協力しながら事故防止に努められる環境づくりをしている。	A	7	3	0	0	37	3.70	92.5%	全体的に風通しの良い職場の雰囲気が感じられる。	常に外部とのつながりをもつことが重要。そういう意味においても、教職員と保護者・地域とのつながりを増やすことが大切である。
6	②学校は、安全・安心に配慮し危機管理体制を整えている。	B	7	3	0	0	37	3.70	92.5%	交通安全等の見守りや、安全な過ごし方に関する情報提供などの取組で子供たちの安全への配慮がみられる。今後、想定外の災害等を想定し、小中連携やマニュアルづくり・活用等、さらなる取組が必要である。	第二中学校と隣接していることや、西大和団地や自衛隊官舎など、地域に特色があることから、小中連携をすすめ、この地域ならではの地域防災を考えていく必要がある。
7	学校は、地震や火災などを想定した訓練を計画的に実施し、効果的な防災教育を行っている。	B	3	7	0	0	33	3.30	82.5%	危機管理マニュアルの整備や引き取り訓練など、災害を想定された体制等の整備は進められている。今後、関係機関や地域を巻き込んだ更なる準備を進める必要がある。	具体的な事件・事故、災害等を想定した訓練を行うとともに、関係機関や地域を巻き込んだ取り組みを進めていく。
8	⑩学校は、保護者や地域と連携し、その教育力を学校運営や教育活動に生かしている。	C	2	6	2	0	30	3.00	75.0%	地域性が難しい広沢地区において、地域の教育力の活用は大きな課題である。	保護者との関わりに加え、西大和団地の方や、中学校や県立学校（特別支援学校や高等学校）、近隣施設との関わりを模索していく。
9	学校は「社会に開かれた教育課程」を志向し、家庭や地域と学校教育の目標や内容を共有している。	C	2	5	3	0	29	2.90	72.5%	少しずつ社会に開かれた教育課程が進められているものの、目標や内容の共有までは至っていない。これからの取組に期待している。	学校の授業において、保護者や地域との関わりを増やしていく。その中で目標や内容の共有を図っていく。
10	③児童は、教職員の指導により、基礎学力を身に付けている。	B	6	3	1	0	35	3.50	87.5%	教職員が努力され、子供たちに熱心な指導がなされている。	教職員一人一人に任せることなく、学校としてどう取り組んでいくのかが重要。家庭との連携やICTの活用なども含め、具体的に検討し、発信していく。
11	④学校は、学力向上（主体的・対話的で深い学びの実現等）を目指し、児童の実態に基づいて授業改善に努めている。	B	4	6	0	0	34	3.40	85.0%	アンケート結果から、ICTの活用等、積極的に取り組んでいる様子が伺える。	児童の実態に応じた、具体的な指導について、学校としてどう取り組んでいくのか、プロジェクトチームなどの取組等、今後検討していく。
12	学校は、外国語等の学習やICTの活用など、これからの時代に必要な学力の育成に力を入れている。	C	4	4	2	0	32	3.20	80.0%	保護者や教職員のアンケート結果から更なる取組が必要であるが、教職員だけでは限界がある。コロナ対応を抜きにしてのタブレット活用をさらに進めていく。	ICTの有効活用には、外部連携が必要。学校単独では難しい。またタブレットは、コロナ対応から通常授業における活用の研究が必要である。
13	学校は、子供たちの実態や日々の実践、学力調査等を基に、カリキュラムマネジメントを確立し、よりよい教育課程の編成に努めている。	C	5	2	3	0	32	3.20	80.0%	実態がよくわからない。しかしコロナ禍で予定通りいかないことが多かった中、臨機応変に対応していた。	必要に応じてカリキュラムを見直し、限られた時間の中でよりよい教育が進められることに期待する。
14	⑤学校は、児童が学習ルールを理解するなど、学習規律の確立が図られている。	B	6	4	0	0	36	3.60	90.0%	子供たちは落ち着いて学習している様子がうかがえる。	学校として共通した指導となるよう、何をどのように指導していくかを明確にしていく。
15	学校は、子供一人一人に寄り添い、いじめや暴力等を見逃すことなく、共通理解のもとに指導している。	A	8	1	1	0	37	3.70	92.5%	学校の雰囲気が良い。「ホウレンソウ」を心掛け、教員が一人で抱えることなく共通理解を図っているように思う。	保護者と教職員が共通認識を持つことが大切。そのための手立てを講じていく。また、問題が起きたときに、迅速に対応できるよう、教職員が一丸となって取り組んでいくことに期待する。
16	⑦学校は児童の実態把握に基づき、規律ある指導の工夫・改善に努めている。	B	4	6	0	0	34	3.40	85.0%	実態はよくわからないが、アンケートの結果からそう思う。	具体的にどのようなことを子供たちに身に付けさせるのか、学校と家庭、地域で共通理解を図り、取り組んでいく。
17	⑥児童は、生活のルールに基づき、発達段階に応じた規律ある態度を身につけている。	B	5	5	0	0	35	3.50	87.5%	教員や保護者など、大人からだけではなく、異年齢の子供たちの交流や友だちとの関わりから学ぶ機会も多い。	特に取り組むべき課題は何かを明確にし、それに対する取組を行っていく。
18	⑧児童は、体育の授業や外遊び等の運動に意欲的に取り組んでいる。	A	8	2	0	0	38	3.80	95.0%	楽しく体を動かしている児童がたくさん見られた。樹林公園や児童センターなど、この地区ならではの環境を利用することも考えられる。	休み時間等、比較的よく外で遊んでいる。そのことを踏まえ、学校や家庭、地域でどんなことに取り組めるのか、共有できるとよい。
19	⑨学校は、児童の体力を高めるため、意図的に向上策を講じている。	B	5	3	2	0	33	3.30	82.5%	コロナ禍で難しい状況だったと思うが、縄跳びの宿題や子供が取り組みやすい遊びを取り入れた体育の授業など、色々と工夫されていた。体育集会や委員会の取組が本来のようにできればよいと感じた。	コロナ禍で取組が難しいところもあったが、その中でどんなことができるのかを具体的に考えて、少しずつ取り組んでいく。
20	学校は、普段から子供たちに食育や体の健康に関する指導を行っている。	A	7	3	0	0	37	3.70	92.5%	保健や食育の計画に基づいて、養護教諭や栄養士と担任が協力して取り組んでいる。	学校内部だけではなく、家庭や地域とさらに情報共有をし、連携した取組にしていきたい。
21	学校は子供のよさを見つけ、子供を理解しようと努めている。	B	6	4	0	0	36	3.60	90.0%	転出入の多い学校だが、児童や先生たちは入ってきた子供を仲よく受け入れ、個を大切にしている様子がうかがえる。	子供たちの頑張りを認め、自信を持たせていく指導を、学校として共通理解を図り、進めていく。
22	学校は子供たちの現状をとらえ、新しい時代を生きる子供たちに必要な力の育成に努めている。	C	3	5	2	0	31	3.10	77.5%	今まさに予測困難な時期である。新しい時代を生きる子供たちにどういう力を身に付けていくか、今後の取組に期待している。	目指す方向性を教職員、保護者、地域で共有し、教師として必要な知識・技能を積極的に身に付けていってほしい。
23	その他、ご意見・改善策等ありましたら、ご記入ください。	平均	5.05	4.09	0.86	0.00	34.18	3.42	85.5%		
			50.5%	40.9%	8.6%	0.0%					

※黄色枠は本校オリジナル、薄青枠は市教委指定